

1986年9月23日

## 8. 羽黒川源流

L

秋雨前線の影響でぐずついた天気が続いたが、ひさびさの晴天にめぐまれる。今日は峠駅から羽黒川源流の遡行を行った。沢名は不明である。

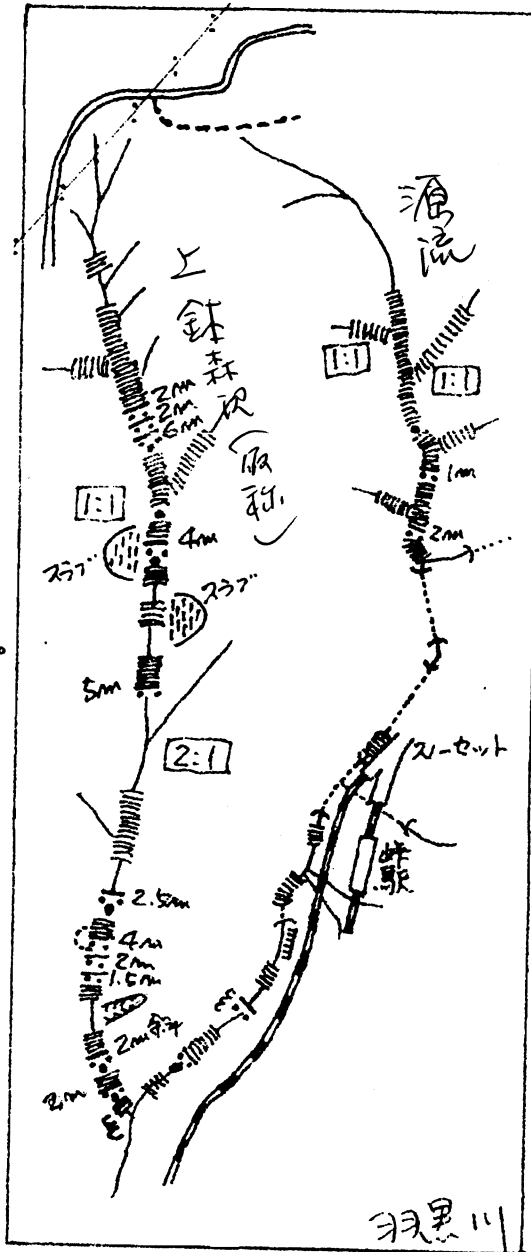
峠駅に車を置き、駅舎のわきを通過して階段を降り、奥羽本線の線路上に降り立つ。そのまま50m程大沢方面に向い、鉄橋のはしごを利用して羽黒川に入る。

列車から見えるように、沢はナメ床となっている。これは先が楽しみだと思ったとたん、沢はなんと直径5m程のヒューム管の中に入ってしまった。ここからは、トンネルの中をヘッドランプをつけて遡行することになる。最初のトンネルは、途中で萱峠へつきあがる沢と分かれる。ここでヒューム管は直径3mに変わり、2mの段差をシュリングを利用してなんとか越える。ケーピングをしているようである。

トンネルを出るとナメとなるが、すぐつぎのトンネルに入ってしまう。暗いし、古いトンネルなので、足場が悪い。慎重に先に進む。

2番目のトンネルを出ると、コンクリートで固めた人工河川となる。3番目のトンネルの前で、人工河川は40度程の急坂となり、行きずまってしまった。何度かシュリングを投げ飛ばして、なんとか支点を確保することができたものの、これらのトンネルを通過するだけで1時間を費やしてしまう。

3番目のトンネルをぬけ、ようや



く沢らしくなる。ここから上は、ナメの連続となっている。ところどころ小滝や釜があり、快適な遡行を楽しむことができた。

上流部は水量も少なくなり、平坦となってくる。途中造林地となっていて、刈り払いがなされている。左岸に上がれば道路だが、私達は流れにそって忠実に遡り、源頭にある造林地の作業道に出る。

帰路は羽黒川源流のひとつ西側の沢を下る。大沢に通じる道路から沢に降りる。源頭は流れがはっきりせず、何本かの小沢を合わせて沢らしくなってゆく。

この沢も沢床はナメである。快適に下降していく。まもなくそう角度はないが、2m、2m、6mと連瀑となってナメ滝がかかる。そこを過ぎると、左岸から同水量の沢が入り、次に右、左とスラブが現われる。

沢の間はゴーロとなる。この沢のほとんどの滝はクライミングダウンで降りられるが、途中の4m滝だけが下降できず、右岸をブッシュを利用して捲いた。全体的にはナメが続き、登って楽しめる沢のようだ。約1時間で羽黒川との合流点に到着する。

[タイム] 峠駅(9:20)→羽黒川(9:30)→人工河川終了(10:30)→踏跡(11:25)→下降開始(11:45)→羽黒川出合(12:50)→峠駅(13:35)

## 9. 飯豊・稜川(日当沢)

1986年9月13~15日

L

9月13日 福島(16:00)⇒幕営地(20:55)

地域研究と正月山行の偵察をかねて飯豊の沢に入ろうということになり、沢登り1年生の私も、幸運にもこの山行に加わることができた。初日は、福島を出発し、弥平四郎より林道終点駐車場にて幕営。

9月14日 曇時々雨。 幕営地(6:50)→出合(6:55)→ウスガス沢出合(7:20)→巻岩沢出合(7:55)→二俣・坑道跡(9:10)→稜線(12:05)→疣岩山(12:35)→三国小屋(13:10)

6時50分、幕営地発。白布沢との出合の橋より沢に入り、遡行を開始する。沢